

水中環境保全活動にご参加いただきありがとうございます。下記活動手順に従って清掃を行いますのでよろしくお願いします。  
水中清掃ボランティア活動は、協力の要請に応じてダイバー自身が自主的に水中のゴミを回収していただく活動です。ボランティアのみなさんが活動中、運営者は安全管理の対応ができません。安全管理や判断はご自身とバディの責任で行って下さい。  
バディシステムを守らない、運営責任者の説明する手順や指示に従わないなどの場合は活動を中止していただく場合があります。  
またこの活動はあくまでボランティアです。なによりもまず安全を最重要視し、決して無茶や無理をせず、活動可能な範囲で行って下さい。

## 【参加基準】

- ・ダイビング経験本数 50 本以上 ・アドバンスドオープンウォーターダイバー以上の資格を有すること ・直近のダイビングが 1 年以内であること
- ・（推奨）ナビゲーション・ナイト視界不良・レスキューおよび環境保護活動参加の講習を受けていること
- ・海未来の会員（賛助会員または正会員）であること

## 【参加に際して準備いただくもの】

- ・水中清掃活動に必要なダイビング器材一式
- ・ダイブコンピュータ、水中コンパス、サーフェスマーカーブイ、水中カッターまたはナイフ
- ・（推奨）水中ヘルメット、水中ライト

## 【海未来で準備するもの】

- ・シリンダー、ウエイト（ウエイトベルトは限りがあります）
- ・グローブ（軍手） 使用後はお持ち帰りいただくかご自身で処分してください。
- ・水中用ヘルメット 数に限りがあります。
- ・投棄ゴミ収集用袋

## 【おもに回収していただきたいゴミ】

- ・飲料容器類：空き缶、ペットボトル、空きビンなど
- ・プラスチック類：プラスチック袋、容器、トレー、ケースなど
- ・釣り具類：竿、リール、エギ（疑似餌）、おもり、サビキかごなど
- ・その他のゴミ類：タイヤ、バッテリー、椅子、自転車、家電製品、生活用品、鉄くず など

## 【活動手順】

- ・清掃は必ずバディ単位で行ないますので、まずバディ（奇数の場合は 3 人一組）を決めます。  
※初参加の場合は、水中環境保護活動で経験豊富なダイバーとバディを組みます。
- ・器材の準備、チェックをします。軍手、ゴミ袋、ヘルメット、収集用ゴミ袋を受け取ってください。
- ・清掃をお願いする活動範囲の説明を聞き、その範囲を確認します。
- ・エントリー前に陸上でコンパスを使い、岸側の方角を確認しておきます。
- ・エントリー・エキジットの場所と手順を確認します。
- ・水中活動時間はおよそ 1 時間です。  
※作業時間内であっても残圧が 50BAR になったらただちにバディと浮上を開始し作業を終了して下さい。
- ・投棄ゴミの回収は、ひとりがゴミ袋を持ち、もうひとりが回収してゴミ袋に入れるようにするとバディを見失うリスクが軽減します。
- ・ある程度袋にゴミが入ったら、浮上して、陸上班に声をかけ袋をロープにとりつけて揚収してもらいます。
- ・ゴミを渡したあと、陸上班から新しいゴミ袋を受け取ります。
- ・袋に入らないもの（タイヤ等）や重量物（バッテリー等）は陸上班のロープにくくりつけて、そのつど揚収してもらいましょう。
- ・活動終了後、写真撮影を行います。
- ・活動終了後のシャワーや風呂、食事などについてはそのつど主催者から説明します。

## 【注意事項】

- ・水中で不安や疲れ、寒さを感じたときは、無理をせず直ちに活動を中止してください。
- ★バディを見失ったときはすぐに浮上し、水面で合流してから再開して下さい。くれぐれも単独行動は慎んで下さい。
- ・多くの場合沖にゴミは少ないので、岸から 10 m 程度までで活動してください。
- ・ゴミを拾った後は水中が濁るため、端からゆっくり進み、何度も往復しないようにするといいでしょう。
- ・濁り防止と環境保全のため中止浮力を意識し、できるだけ着底を避けフィンで水底をかきまわさないようにしましょう。
- ★ゲージやオクトパスが水底に触れないよう、ホルダーを利用するか BC に収納しておきましょう。
- ・水中生物に触れないようにしましょう。とくにガンガゼなどのウニやオコゼなどに注意しましょう。
- ・空き缶や空き瓶を回収する際には水中生物がいないかどうか確認しましょう
- ・大きなゴミの回収も大切ですが、無理せず小さな投棄ゴミをこまめに拾うようにしてください。
- ・常に潜水場所を意識し、時には浮上して位置を確認しましょう。浮上の際は、監視船や作業船などに注意しましょう。
- ・流れが発生することがあります。流されないように注意をしてください。また流された場合に備えてかならず SMB を携帯してください。
- ・潜降浮上の繰り返しが多くなります。急浮上は浅い水域でも減圧障害の危険性が増大しますのでゆっくりと浮上して下さい。
- ・浅くても清掃活動により空気消費が早くなりがちです。残圧、深度を頻繁にチェックしましょう。